



TITLE:

月と6ペンス

AUTHOR(S):

CITATION:

月と6ペンス. 天界 1941, 21(237): 79-79

ISSUE DATE:

1941-02-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/168135>

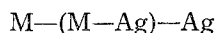
RIGHT:

云へない。

総合して見ると、未だガラス裏面反射鏡には劣つてゐる。併し將來ガラス裏面反射鏡に劣らないものが出来ると云ふ見込は十分にある。

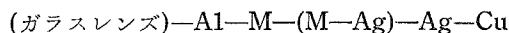
II. アルミニウムに銅を電気メッキするときの 仲介層に就て

アルミニウム沈著層は多孔質であるから、仲介層は乾式で作る必要がある。それには真空蒸發に依つて作るのが一番よろしい。仲介層として銅の直接下地になるものとしては化學的性質の優れた銀か銅が良い。アルミニウムの直接下地になる金屬をMとして仲介層を構成すると、



となる。(M-Ag)はMとAgとの合金を表し、AgはCuとしてもよい。問題はアルミニウムに依つて附著する金屬Mを見出すことである。

Mを見出す方法としては



として、實際にガラスレンズから剥ぎとる試験をするのである。ガラスレンズ表面とアルミニウムとが十分によく附著してゐないと、銅メッキが出来ないから、若しガラスレンズとアルミニウムとの間で剥げたら、實用的にMはアルミニウムによく附着すると考へてよい。實用的な金屬に就いて實驗した結果、附着力の大きいものとしてはCr, Ni, Fe, Al, 附着力の小さいものとしてはAg, Cu, Auが見出された。附着力の大きいものの中で、Crに依る仲介層が最も結果がよかつた。即ちAl-Cr-(Cr-Ag)-Agを仲介層として採用した。

尙アルミニウムによく附著する金屬はガラスにもまたよく附著することが解つた。ガラスとアルミニウムとに何か類似性があると考へてよい。ガラス及びアルミニウムによく附著するものゝイオン半徑が、共に小さいことも注意されてよい。イオン半徑の點から實驗した時Si, Rhもよくガラス及びアルミニウムに附著する。

【電氣學會雜誌、第642號、昭和15年七月號より】

(上掲の研究論文は著者の許可を得て轉載す—高城)

“月と6ペンス”

中央公論社發行の現代世界文學叢書にサマセツト・モーム原作、中野好夫譯の「月と6ペンス」がある。不世出の畫家ポール・ゴーガンの數奇なる一生を描いた名小説。題名はスタンダールの「赤と黒」と同じく、象徴的な意味を含んだものである。